

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価
だれにもやさしく げんきよく しっかり学ぶたけしの子	・思いあえる子ども ・自分を高めていける子ども	教育活動に際限はないが、学校教育目標は達成されたといつてよい。本年度はここまでとして、来年度はまた新たな思いを持って進んでいくのがよい。職員自己評価が控えめである。自信をもって良い。

今年度の重点目標	成果と課題	総合評価	改善策・向上策	学校関係者評価
<b>重点1 にこにこ交流</b> <b>&lt;笑顔でかかわり合える&gt;</b> ①つながりをつくる学級 安心できる人間関係づくり ②地域から学ぶ・地域の教育力を活用する。 ③健康、安全安心のための家庭・関係機関との連携	○なかよし学級交流や縦割り清掃、児童会活動を通して異学年交流、地域の方の支援の手が入った学習活動を通して地域の方との交流、地域へ地域へ出かける活動を通して地域の方や施設の方との交流ができた。さまざまな方々とかかわって教育活動がなされた。 ○必要に応じて支援員や相談員、SC,SSW と連携し支援や相談にあたった。前半心配だった児童も笑顔が多い年度末になっている。 ●生活習慣やメディアの付き合い方について課題がある。	A	・配慮が必要な児童を中心に据えた学級づくりを行うとともに、効果的な支援員等の配置や時間割など学校体制で支えていく。 ・これからも授業や行事、放課後自習室などとおして地域の方のかかわりを積極的に進めていきたい。 ・インフルエンザ発生の際には児童館との連絡を密にしたり、朝食の重要性やメディアとの適切な付き合いについて保護者へ情報提供を行っていく。	地域から学ぶ多彩な活動が展開されている。地域へ出る学習が多く、人格が育つことにつながっている。 3校交流は大事である。中学校中学時にすでに仲良くなっている。 メディアコントロールは課題である。学校保健委員会の講演会が大変良かった。学校からは発信していくとよい。
<b>重点2 もくもく清掃</b> <b>&lt;心を磨く&gt;</b> ①自発性を育てる自問清掃 ②キャリア教育の推進 ③道徳教育・人権教育の充実 ④自分たちで作る児童会	○縦割り清掃を年3回行ったことと自問清掃の内容を2つに絞ったこと、「おそうじびかびかさん」の企画などが良かった。●取り組みには個人差がある。 ○人権教育月間では内容が充実し言葉に焦点を当てて取り組んだ。 ○子ども自身の手で児童会祭りや各週を企画しやり抜くことができた。企画運営する側も、参加する側も生き生きと取り組めた。	B	・縦割り清掃や児童会活動を通して異年齢集団の中で育つものを大事にして進めていきたい。なかなか清掃や委員会活動に取り組みない児童へは職員がその児童に寄り添い一緒に活動に取り組んでいくようにする。 ・計画的にキャリア教育・道徳・人権教育を進めていくが、児童の実態にあわせ、柔軟に活動内容や目標を決めだして進めていきたい。	「お掃除びかびかさん」に選ばれて喜んでいった。掃除を行う理由を考えながら、社会へとつなげていきたい。お掃除場所が児童数が減っているので場所が増えたのではないかと。ボランティアに入ってもらえるものだろうか。  少人数学習による成果が数字として表れていてよい。放課後自習室で学習習慣がつくのがうれしいことだ、来ない児童はどんな学習をしているのか。底上げを図ることが達成されたのか、CRTなど経年変化をみて評価していくとよい。ICTの観点も目標の中に入れるとよいのではないかと。読書を家庭学習課題などにして読む活動を大事にしてほしい。
<b>重点3 ばんばん学習</b> <b>&lt;わかる・できる・目が輝く&gt;</b> ①日々の授業の充実 3観点の授業展開・主体的・共同的な学び・TT支援や教科担任制・授業のユニバーサルデザイン化 ②基礎基本の定着 ③武石っ子運動の充実 元気アップタイムの実施 ④南部支会学校間連携	○学期初めには学びの基本姿勢を児童と再確認し常に4つの学びを意識し授業が行われた。 ○支援内容や支援児童の焦点化を図り、計画的な支援を行ったので、落ち着いた学習ができ、定着が進んだ。 ○養護教諭や栄養教諭、学力向上支援員とのTT支援ができ豊かな学習ができた。 ○元気アップタイムの工夫がされ意欲的に活動できた。 ○どの学年でも同学年の3小学校の交流または小中交流が行われている。	B	・授業交換や支援の焦点化は効果があったので、年度当初から時間割や体制の工夫をしていきたい。 ・学校司書や養護教諭・栄養教諭とのTT指導を積極的に行い、年間指導計画に位置付ける。 ・授業のユニバーサル化を進め、だれもがわかる授業づくりを進める。 ・カリキュラムや小から中へのスムーズな移行、キャリア教育・総合的な学習の内容など9年間を通した教育活動のあり方について職員間で研修を深めていきたい。	

領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
教育活動	体力向上	心身の健康と体力作り	・元気アップタイム等の運動で体力アップが図れたか。 ・メディアコントロールへの取り組みを継続しているか。	月ごと、曜日ごとに内容に変化を加えたので、めあてをもって意欲的に取り組めた。週1の児童会主催の遊びも工夫されていてよい。メディアコントロールデー以外の日や家庭により課題が多い。	○				・メディアコントロールデーには昼の放送でも呼びかけたり、親への呼びかけを続けたい。コントロールすることの良さを親子で感じられるような工夫をしていきたい。
	学力向上	「4つの学び」の日常化	・武石の学びを支える基本的な学習ルールの定着を図り、4つの学びを授業の中で進めることができたか。	少人数学習を行ったことにより学力や学習の質が上がった。授業の初めには学習のルールを、学期の初めには4つの学びを確認した。職員が意識することで児童への定着が図られる。「心を傾けて聴く」「考えを伝える」ことに課題がある。		○			・児童が自分から「伝えたい」「聴きたい」となる授業展開や4つの学びを実現する具体策を構築をしていく。支援員も含めてすべての職員が4つの学びを意識した1時間になるように努めたい。
	自己表現する授業の実践	・学習課題を明確にし、子ども達自身が考え、さまざまな方法で自己表現する場面を設定できたか。	なぜその考えをもったのかを伝えるように心がけた。理科学習では体験を通じた意見が表出できた。自分の時間をじっくり取り、小グループで話し合う活動を取った。課題に沿って考えられ、良い雰囲気話合っている姿がある。		○			・ペア学習やグループ学習を1時間の中に効果的に取り入れた。わからないことをわからないと言える人間関係を作りたい。	
	自主学習の定着	・「つむぐ」の活用ができているか。 ・放課後自習室の活用ができたか。	「つむぐ」の時間を確保し、児童と対話し、確認した。自分で計画を立てることが難しい。放課後自習室は常時4割ほどの児童が活用した。活用児童は集中力や意欲は増している。時間や曜日を増やしてほしいという要望あり。		○			自主学習の内容の手がかりを与えたり、選べるプリントの用意、自主学習のファイリング、個別にアドバイスするなど自主学習を促す働き掛けを行っていく。地域の方の支援による放課後自習室を継続していきたい。	
情操教育	人権が尊重される教育活動や人間関係づくり	・学級・他学年交流・児童会活動の中で、また地域の方ともつながりをつくる活動ができたか。	クラス内で人を傷つける言葉や態度が出ていたことに対して学校全体で「言葉」について考え合うことができた。児童会行事や週間企画など相手意識を持って活動する姿があった。ペア学級との活動が楽しくできた。		○			つながりや相手意識を持った活動をこれからも折に触れ取り組んでいきたい。来年度は児童会が主体となった地域の方との交流も考えていきたい。	
学校運営	地域との連携	相談・支援体制	・児童、保護者の声を大切にしたい相談を行い、支援につなげることができたか。	必要な児童や必要な学級へ支援が入るよう支援計画を立てた。子どもの訴えや必要に対応できている。保護者との連絡を密にし、職員間の連携も取れている。	○				全校の相談週間は困り感の早期発見につながっている。継続していきたい。相談内容や支援内容を常に担任と情報交換し、SC、SSWなども必要に応じて協力体制を整える。
	情報発信	・学校便り、学年便り、ホームページ等で学校の様子を伝えているか。	子どもたちの学校での様子をわかりやすく伝えようと努めた。ICT支援員にも協力いただき、ホームページを更新できた。		○			定期的にわかりやすく伝えていきたい。エリアトークの活用も考えたい。	
	地域から学ぶ・地域の教育力の活用	・自然環境を生かした学びを進めたり、地域の教育力を活用したりすることができたか。	総合的な学習の時間など地域に学べる素材が多く、地域の方も協力的でよい学びができていく。放課後自習室は地域の方の支援がありがたい。		○			これからも地域の方の助けを借り、武石ならではの学習を進めていきたい。地域と共にある学校づくりを推進するために、学校運営委員会で十分審議をしていただきたい。	
	研修	授業力の向上	・自己課題を持ち、日々授業改善をし、研究会を通して学ぶことができたか。	自己課題を持ち、学級目標具現化に向けて日々授業改善に努めた。常に重点研究や学年会で討議・相談し、授業づくりに活かした。		○			お互いに気軽に授業を見合っているとよい。多忙であるがみんながわかる授業づくりを一番大切にしたい。
組織	情報の共有・全職員による学び合い・支え合い	・教科指導や生徒指導などに関わる情報を共有し、チームで支援・指導にあたれているか。	生徒指導にかかわることは全職員で解決していく雰囲気がある。いくつかの課題があったが、関係職員で共同で解決の方向に向かうことができた。		○			相談しやすい職員集団の雰囲気をこれからも作ってほしい。担任だけ、担当だけで行わず、ワンチームとなって事に当たる。	